

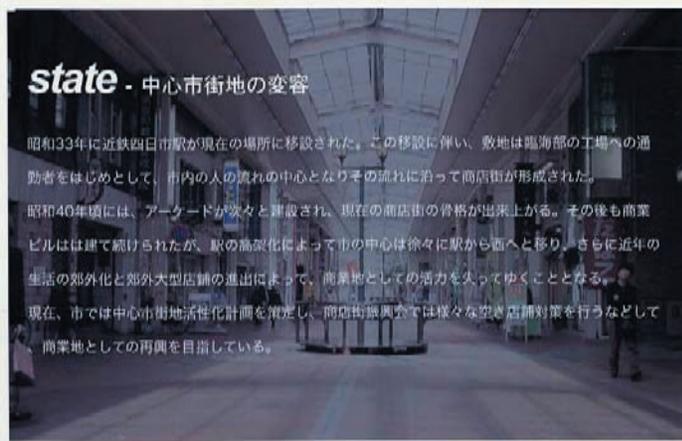
かつての賑わいは失われた。
 地方都市における生活の郊外化と車社会によって、商店街はシャッター街へと姿を変えつつある。
 郊外への店舗の移転、住人の転居によって空き店舗、空きスペースが増加し、街は寂退してゆく。
 三重県四日市市、近鉄四日市駅前の諏訪栄商店街もその例外ではない。

一 街の庭、街の居間 一
 この計画では中心市街地の空きスペースを居住のためのスケルトンと捉え、
 住居の充填と商業との複合によって街に如何なる蘇生の可能性が秘められているのかを描く。
 その複合を可能にするのが現在アーケードが存在する空間である。

私は、アーケードを立体的な生活空間を創出するデバイスとしてデザインする。
 既存の商店・住戸と用途変更により生み出される新たな住居はこのデバイスによって、
 新たな街を創出するだろう。
 商業と結びついた滞在型の空間は「街の居間」である。
 住居をつなぐ緑の帯は「街の庭」である。

街の庭、街の居間

Yokkaichi Suwasakae Arcade / Machi-no-Niwa, Machi-no-Ima /
 Diploma Design 2003 / 400740 Hitoshi Murai /



state - 中心市街地の変容

昭和33年に近鉄四日市駅が現在の場所に移設された。この移設に伴い、敷地は臨海部の工場への通勤者をはじめとして、市内の人の流れの中心となりその流れに沿って商店街が形成された。
 昭和40年頃には、アーケードが次々と建設され、現在の商店街の骨格が出来上がる。その後も商業ビルは建て続けられたが、駅の高架化によって市の中心は徐々に駅から遠へと移り、さらに近年の生活の郊外化と郊外大型店舗の進出によって、商業地としての活力を失ってゆくこととなる。
 現在、市では中心市街地活性化計画を策定し、商店街振興会では様々な空き店舗対策を行うなどして商業地としての再興を目指している。



商業中心の衰退

商業中心は活気の衰へ、そして賃料と共に荒廃して来た。近年では、生活の郊外化と大規模店舗の進出によって、薄利多売の郊外店舗の大量移転がその中心となっているが、薄利多売に代わって、人の受容性が減少すること、物産の多様性が失われることが懸念される。商業中心は多様性、多機能性を創出する必要がある。



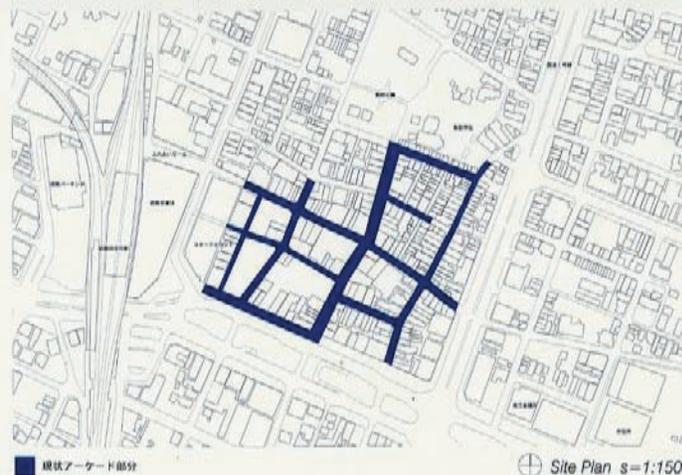
都心居住の高まり

四日市市の中心市街地ではここ10年で2100戸のマンションが建設された。このような高層ビル、高層マンションの建設は、一旦は政府に転じた市街地の活性化に寄与するものがある。また、市街地の活性化、商業地としての再興を考えると、都心居住のメリットは多く、この街にも増加傾向が続くであろう。



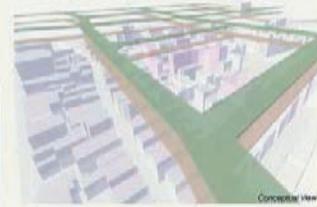
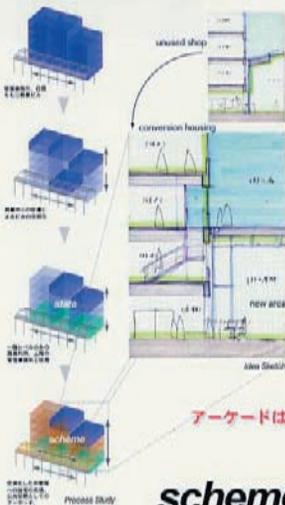
未利用空間の増積

現在四日市市街地の未利用空間率は12.3%とされているが、これは一般都市のみならずである。周辺地域の郊外化に伴い、オフィスや店舗などによって、商業地としての中心市街地には多くの空きスペースが蓄積されていると見られる。アーケードを重要なものは約30%に建設されたもので、多くの空きスペースが蓄積されている。また、その上には建物解体による空きスペースが蓄積されている。商業地としての再興は、多機能性を創出する必要がある。



現状アーケード部分

Site Plan S=1:1500



商業中心の衰退はこの街の変容を求めている

都心居住の高まりは地方都市の新たな生活像を描く可能性を秘めている

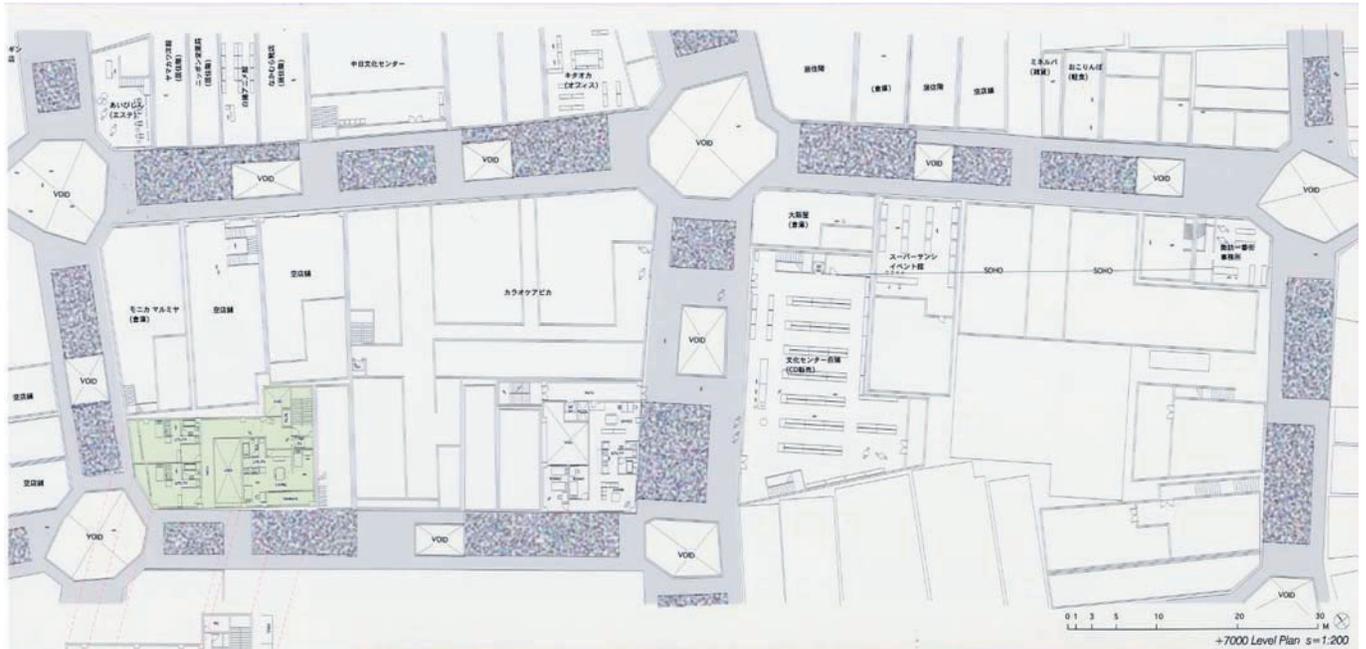
未利用の空間が今、ここにはある

空ビルを居住空間に転用しよう
 アーケードはそのコミュニティの共用空間として新設しよう

商業と結びついた新しい街が生まれる

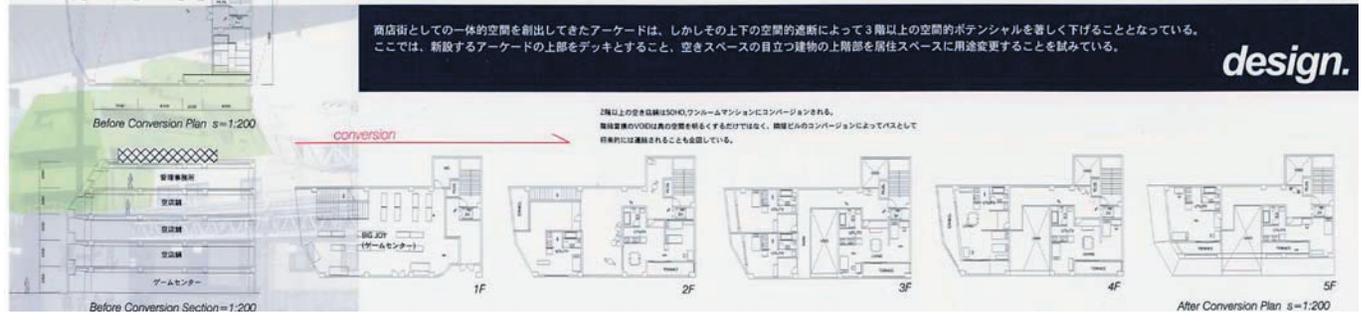
scheme - 居住空間への転用、商業との複合

「街の庭、街の居間」 400740 村井 一



+7000 Level Plan s=1:200

商店街としての一体的空間を創りだしてきたアーケードは、しかしその上下の空間的透断によって3階以上の空間的ポテンシャルを著しく下げることとなっている。ここでは、新設するアーケードの上部をデッキとすることで、空きスペースの目立つ建物の上階部を居住スペースに用途変更することを試みている。



2階以上の空き店舗はSOHO、ワークスペースなどにコンバージョンされる。
 既存建物のVOIDは高の差を解消するだけでなく、隣接ビルとのコンバージョンによってバスとして
 将来的には活用されることも念頭にしている。



+1000 Level Plan s=1:200

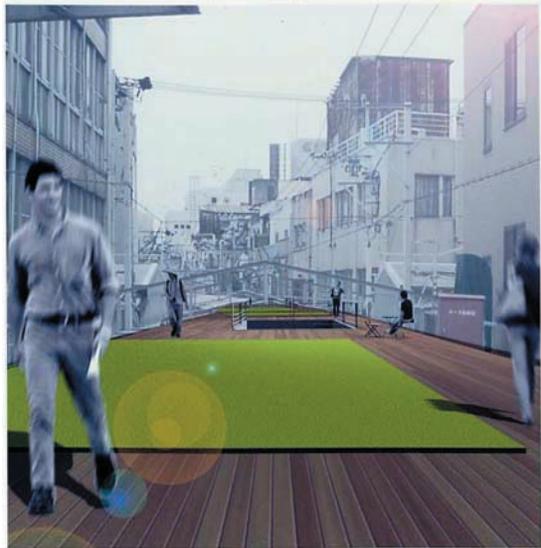
φ=200mmの鋼管を鉄筋の開口関係を考慮し、1200~3600mmのスペンで配置する。
 床荷重を分散させるとともに、林立する繊細な構造の隙間に生じる空間は既存店舗と通過空間の間に取捨関係をつくりだす。



2階以上の空き店舗はSOHO、ワークスペースなどにコンバージョンされる。
 隙間によって生じる空間は既存店舗と通過空間の間に取捨関係をつくりだす。
 高層部をとして「街の庭」、「街の居間」として活用されることも念頭にしている。

+After Conversion Plan s=1:200

「街の庭、街の居間」 400740 村井 一



Perspective



未利用のアーケード上の空間は、帯状の庭となる。
 居住者が行き交うこの空間に向かい、
 各々単一のフロアとして堆積してきたビル内部の空間は、
 連続的にコミュニティを創出することが可能となるだろう。



青色：住居転用部分

B-B Section s=1:300

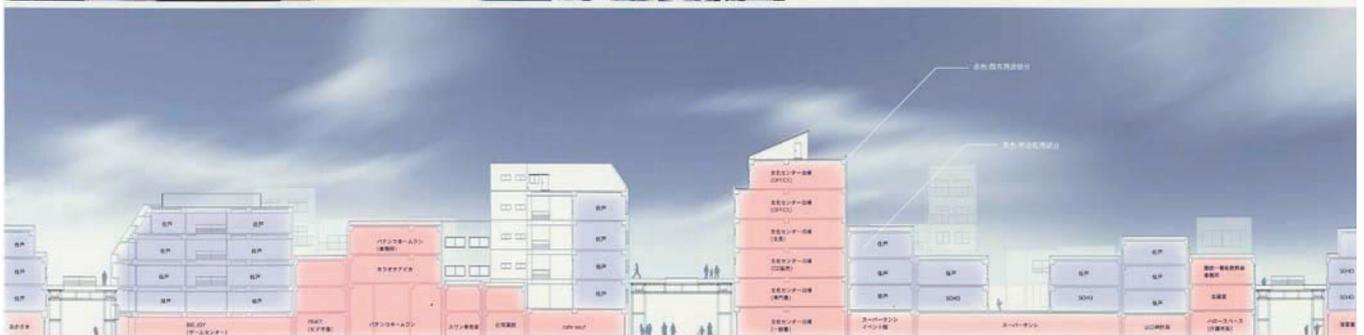
住居をつなぐ帯状の地形は"街の庭"である。

vision.



Perspective

既存の商店と結びついた滞在空間は"街の居間"となる。
 近隣のマンション居住者も含め、多くの人が佇むこの空間では
 生活密着型の商業活動が行われる。
 SOHOの挿入によって、土地に根づいた事業者も定住し、街の活力の一部となる。
 様々な活動の関係の場となるこの空間が、街の主体性を生み出してゆくのかもしれない。



C-C Section s=1:200

商業と結びついた滞在空間は"街の居間"である。

vision.

「街の庭、街の居間」 400740 村井 一



商業と居住の複合、街を"住みこなす"生活がそこにはある。 **life.**

